

山口市南部地域振興ビジョン

H21.3

山 口 市

目 次

I 策定にあたって	2
1 ビジョン策定の趣旨	2
2 対象地区	3
3 ビジョンの位置づけ	3
4 対象期間	3
II 地域の様子	4
1 地域の概要	4
2 地域の特性	10
III 南部地域振興の方向性	15
1 基本方針	15
2 南部地域の将来像	18
IV ビジョンの推進	19
1 広域経済・交流圏形成の視点から	20
(1) 東西広域交流軸 ～空間的視野の拡大～	20
(2) 都市核交流軸 ～都市核機能の連携～	21
2 地域づくりの視点から	22
(1) 榎野川東交流軸 ～田園、海浜を活用した地域づくり～	22
(2) 榎野川西交流軸 ～連携・交流を通じた地域づくり～	23
(3) 南部海岸交流軸 ～地域資源を活用した地域づくり～	24
(4) 安心して暮らせる地域づくり ～地域づくりに共通する取り組み～	25
○ 用語説明	26

※本文中、下線 () を付した用語については28ページ以降を参照ください。

I 策定にあたって

1 ビジョン策定の趣旨

少子高齢化の進展と人口減少社会への転換、道州制の検討をはじめとする地方分権の進展や経済のソフト化、グローバル化など私たちを取り巻く時代潮流はかつてないほど、大きなうねりとなっています。

これまで本市は、地方分権の時代にふさわしい21世紀型の自治体として市町合併を通して体制を整えてきました。

今後も引き続き変化を続ける社会情勢と、さらにその先の将来を見据えたまちづくりを行うことが大きな使命となっています。

<広域県央中核都市づくりと南部地域>

本市は県中部を圏域とする「広域・経済交流圏」の形成を通して「広域県央中核都市」づくりを積極的に進めることとしています。

広域経済・交流圏は分散型都市構造を持つ本県にあって、自治体の枠組みを超えた強力なネットワークを構築することで形成しようとするものです。そして広域県央中核都市は広域経済・交流圏を構成する域内各都市と連携して、圏域内外に質の高い都市的サービスを提供する拠点都市としての性格を持っています。

こうした広域的視野のもとでのまちづくりを踏まえ、南部地域を俯瞰すると東西方面、南北方面への広域幹線道路網と公共交通網、大都市圏を結ぶ高速交通網の結節点となっており、まさにこのエリアは広域経済・交流圏におけるネットワーク拠点地域といえます。

本ビジョンでは、こうした南部地域の優位性を生かした地域振興の方向性を示します。

<地域特性を踏まえたまちづくり>

南部地域は合併前は1市3町であった地域であり、近隣都市とのつながりが深く、日常生活の多様性を持っています。

一方で人口減少、高齢化に伴い地区内だけでサービスを完結したり、生活課題へ対応していくことが困難な状況も見られます。

既に整備された都市施設、都市基盤の有効活用とともに、まとまりのある生活拠点への機能集積や機能補完、連携のためのネットワーク化が求められています。

本ビジョンでは南部地域の自立できる生活圏づくりの方向性を示します。

2 対象地区

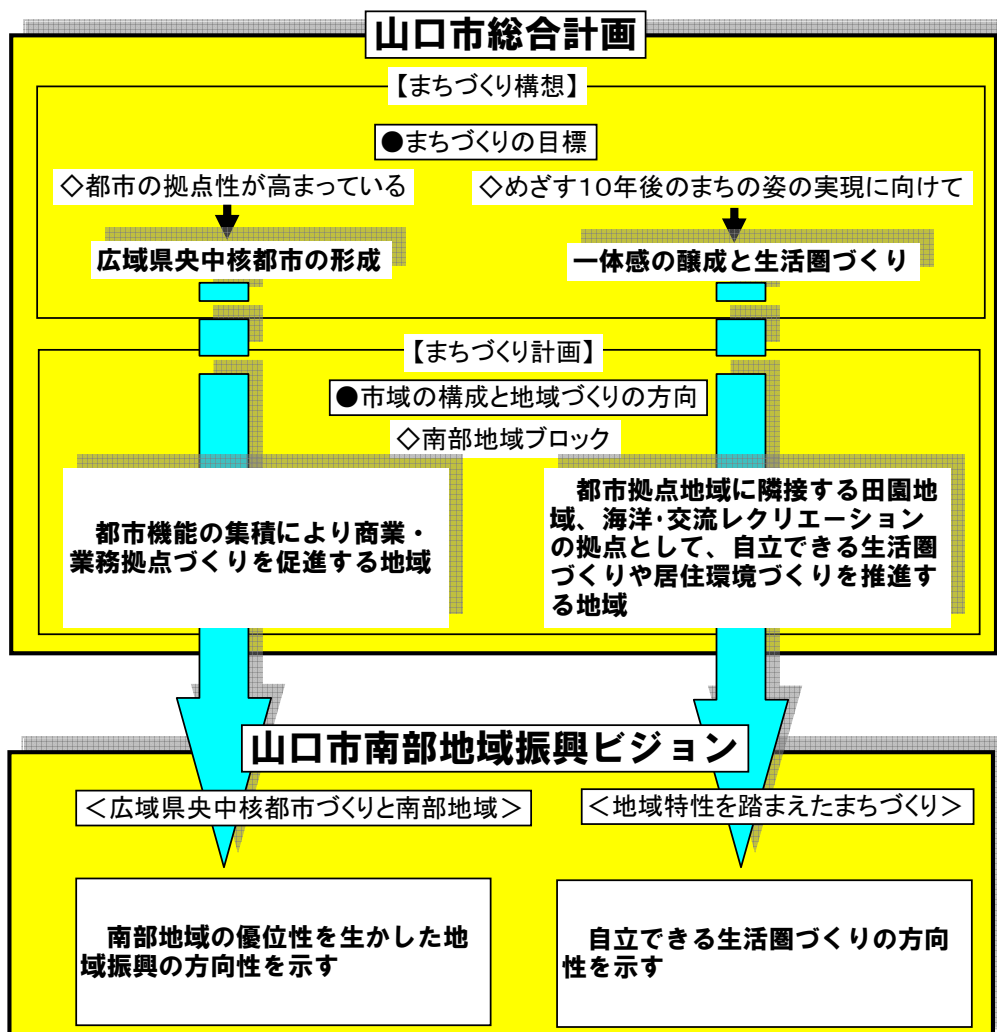
山口市総合計画で示している南部地域ブロックを構成する各地区（小郡、陶、鑄銭司、名田島、秋穂二島、秋穂、嘉川、佐山、阿知須）をこのビジョンの対象地区とします。

3 ビジョンの位置づけ

このビジョンは「新県都のまちづくり計画(新市建設計画)」の理念を継承し策定した「山口市総合計画」を上位計画とし、同計画に掲げる「市域の構成と地域づくりの方向」のうち南部地域の振興の方向性を現状や課題を踏まえ明らかにするものです。

4 対象期間

ビジョンの対象期間は平成21年度から山口市総合計画の計画期間にあわせ平成29年度までとします。



II 地域の様子

1 地域の概要

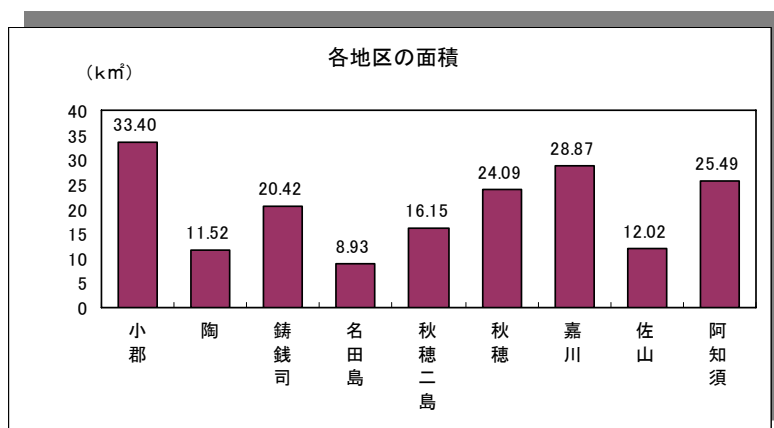
●面積

本市の面積730.23km²のうち南部地域の面積は180.89km²であり、市域の24.8%を占めています。

表1 面積 (km²)

山口市全域	730.23
南部地域	180.89
小郡	33.40
陶	11.52
鑄銭司	20.42
名田島	8.93
秋穂二島	16.15
秋穂	24.09
嘉川	28.87
佐山	12.02
阿知須	25.49
市全体に占める構成比	24.8%
その他地域	549.34

(出典：H19山口市統計年報)



●人口の推移

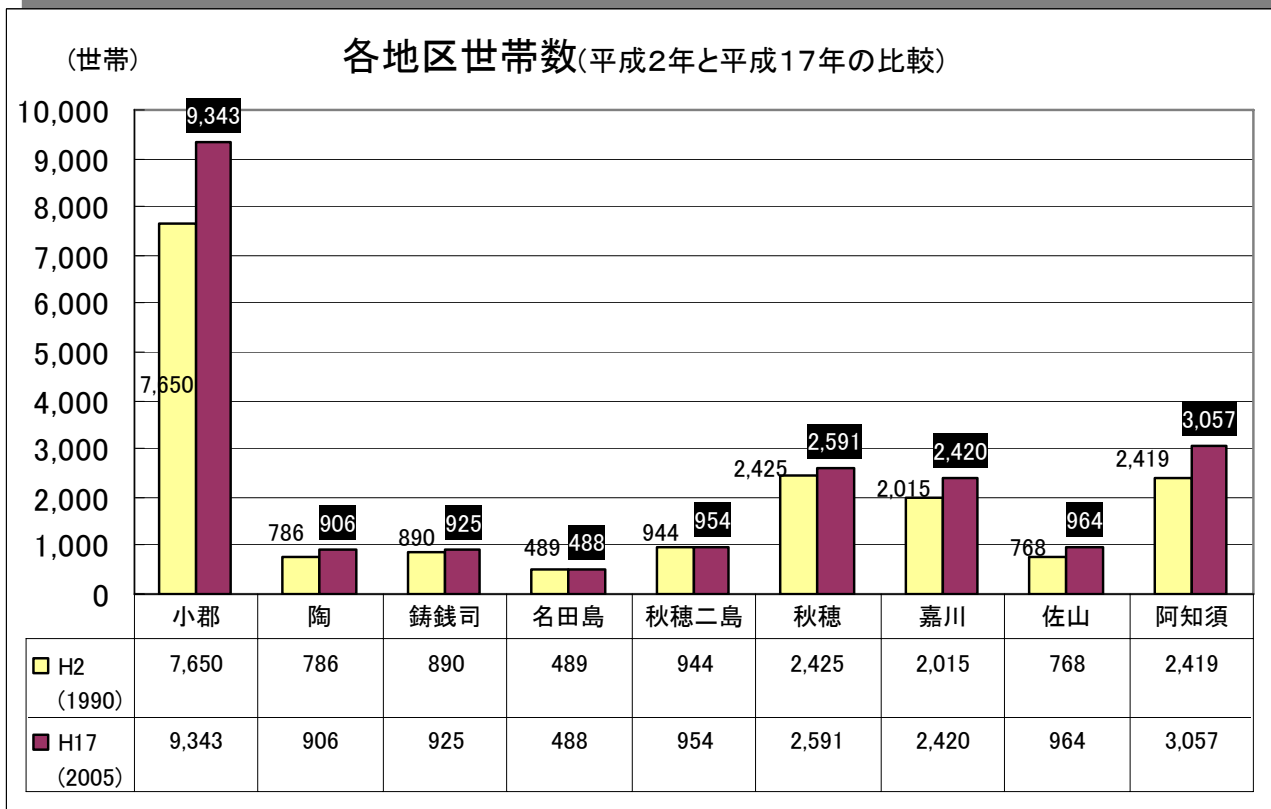
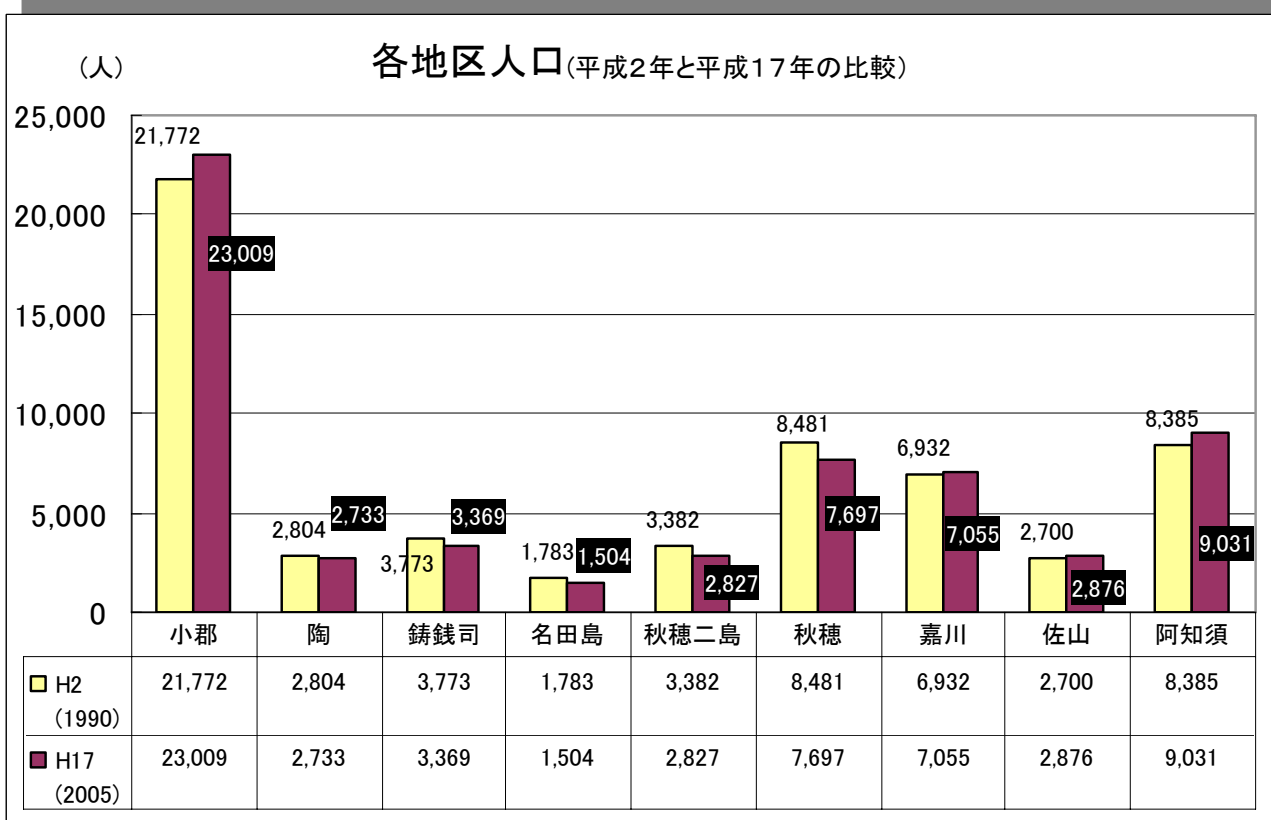
本市全体の人口が平成2年から平成17年までの15年間に7.8%増加する中、南部地域は0.1%の増加で人口はほぼ横ばいです。

地域ごとに見ると小郡、嘉川、佐山、阿知須で増加、陶、鑄銭司、名田島、秋穂二島、秋穂で減少となっており、地域内で人口の偏りが見られます。

表2 人口の推移 (人)

	H2 (1990)	H7 (1995)	H12 (2000)	H17 (2005)	増減率 (H17/H2)
山口市全域	177,852	184,039	188,693	191,677	7.8%
南部地域	60,012	60,629	60,859	60,101	0.1%
小郡	21,772	22,881	23,107	23,009	5.7%
陶	2,804	2,889	2,772	2,733	-2.5%
鑄銭司	3,773	3,755	3,571	3,369	-10.7%
名田島	1,783	1,689	1,651	1,504	-15.6%
秋穂二島	3,382	3,188	2,999	2,827	-16.4%
秋穂	8,481	8,149	7,941	7,697	-9.2%
嘉川	6,932	7,136	7,130	7,055	1.8%
佐山	2,700	2,642	2,865	2,876	6.5%
阿知須	8,385	8,300	8,823	9,031	7.7%
市全体に占める構成比	33.7%	32.9%	32.3%	31.4%	
その他地域	117,840	123,410	127,834	131,576	11.7%

(出典：国勢調査)



●年少人口割合、老年人口割合の推移

本市全体で年少人口割合の減少と老年人口割合の増加が見られる中、南部地域においては、それを上回るペースで少子高齢化が進んでいます。

表3 年少人口割合の推移

	H2 (1990)	H7 (1995)	H12 (2000)	H17 (2005)	増減 (H17-H2)
山口市全域	18.1%	16.4%	15.1%	14.4%	-3.8%
南部地域	17.6%	15.6%	14.4%	13.4%	-4.2%
小郡	20.4%	18.8%	16.9%	15.0%	-5.4%
陶	17.2%	13.8%	12.0%	11.8%	-5.4%
鑄銭司	15.3%	11.9%	9.0%	7.6%	-7.6%
名田島	15.7%	13.2%	11.3%	9.2%	-6.5%
秋穂二島	14.4%	12.5%	11.2%	10.4%	-4.0%
秋穂	15.2%	13.3%	12.5%	11.8%	-3.4%
嘉川	17.1%	14.7%	13.8%	13.3%	-3.7%
佐山	16.3%	14.1%	13.4%	13.7%	-2.7%
阿知須	16.4%	14.5%	14.5%	14.7%	-1.7%
その他地域	18.4%	16.8%	15.5%	14.8%	-3.6%

(出典:国勢調査)

表4 老年人口割合の推移

	H2 (1990)	H7 (1995)	H12 (2000)	H17 (2005)	増減 (H17-H2)
山口市全域	14.4%	16.9%	19.2%	21.0%	6.6%
南部地域	16.2%	19.4%	22.0%	24.5%	8.3%
小郡	10.6%	13.2%	16.0%	18.7%	8.1%
陶	22.1%	27.0%	29.1%	30.4%	8.3%
鑄銭司	18.6%	22.4%	26.4%	31.3%	12.8%
名田島	20.9%	26.5%	29.6%	32.5%	11.6%
秋穂二島	21.4%	25.2%	28.0%	31.0%	9.6%
秋穂	19.4%	22.8%	26.1%	29.3%	9.9%
嘉川	17.8%	20.7%	23.8%	26.1%	8.3%
佐山	20.0%	23.1%	23.7%	24.5%	4.5%
阿知須	19.0%	23.0%	24.9%	26.5%	7.6%
その他地域	13.4%	15.6%	17.8%	19.3%	5.9%

(出典:国勢調査)

●経済活動別市(町)内総生産

統計資料のある平成16年度分の小郡、秋穂、阿知須地区を見ると小郡地区では第三次産業が、秋穂地区では第一次産業と第二次産業の構成率が市全体の構成率と比較して高くなっています。阿知須地区はほぼ市の構成率と同様の値となっています。

表5 経済活動別市(町)内総生産

(百万円)

	総数	第一次産業					第二次産業					第三次産業	
		農業	林業	漁業	総数	構成率	鉱業	建設業	製造業	総数	構成率	総数	構成率
山口市全域	791,149	4,113	1,237	410	5,760	0.7%	1,331	44,542	45,726	91,599	11.6%	693,790	87.7%
小郡	137,629	86	44	0	130	0.1%	0	6,129	3,611	9,740	7.1%	127,759	92.8%
秋穂	15,554	200	8	303	511	3.3%	431	1,399	3,146	4,976	32.0%	10,067	64.7%
阿知須	24,515	173	6	9	188	0.8%	34	2,565	316	2,915	11.9%	21,412	87.3%
その他地域	653,520	4,027	1,193	410	5,630	0.9%	1,331	38,413	42,115	81,859	12.5%	566,031	86.6%

(出典:平成17年度市町民経済計算)

●産業別15歳以上就業者数

就業者総数に占める各産業の就業者構成率を市全体と南部地域とで比較すると南部地域では第一次産業、第二次産業の占める割合が高く、第三次産業の割合は低くなっています。

地区ごとに見ると、小郡と阿知須を除く全地区で第一次産業、秋穂、陶、鑄銭司、阿知須では第二次産業、小郡では第三次産業の構成率がそれぞれ高くなっています。

表6 産業別15歳以上就業者数

	就業者 総数	第一次産業					第二次産業					第三次産業		分類不能
		農業	林業	漁業	総数	構成率	鉱業	建設業	製造業	総数	構成率	総数	構成率	
山口市全域	94,751	5,754	109	222	6,085	6.9%	52	8,719	8,088	16,859	20.1%	71,245	72.5%	562
南部地域	29,904	2,518	8	196	2,722	9.1%	38	2,827	3,375	6,240	20.9%	20,865	69.8%	77
小郡	11,163	249	4	8	261	2.3%	3	1,038	867	1,908	17.1%	8,960	80.3%	34
陶	1,350	188	0	0	188	13.9%	0	127	189	316	23.4%	841	62.3%	5
鑄銭司	1,520	254	0	0	254	16.7%	0	107	236	343	22.6%	922	60.7%	1
名田島	857	261	0	3	264	30.8%	0	55	77	132	15.4%	459	53.6%	2
秋穂二島	1,467	296	1	33	330	22.5%	4	154	147	305	20.8%	832	56.7%	0
秋穂	3,975	368	1	140	509	12.8%	24	497	726	1,247	31.4%	2,202	55.4%	17
嘉川	3,632	403	2	3	408	11.2%	4	322	383	709	19.5%	2,503	68.9%	12
佐山	1,528	194	0	3	197	12.9%	2	140	169	311	20.4%	1,019	66.7%	1
阿知須	4,412	305	0	6	311	7.0%	1	387	581	969	22.0%	3,127	70.9%	5
構成率	31.6%	43.8%	7.3%	88.3%	44.7%		73.1%	32.4%	41.7%	37.0%		29.3%		13.7%
その他地域	64,847	3,236	101	26	3,363	5.2%	14	5,892	4,713	10,619	16.4%	50,380	77.7%	485

(出典:H17国勢調査)

●市道状況

南部地域における市道実延長は市全体の44.2%を占めています。舗装率は100%から80%台までとなっています。

表7 市道状況

	総延長	実延長	平均幅員別			舗装率
			4.0m未満	4.0~5.0	5.0m以上	
山口市全域	1,268,431	1,222,472	382,978	274,026	565,467	96.68%
南部地域	555,059	540,225	152,105	110,194	277,924	
小郡	122,566	117,630	17,410	18,928	81,292	98.80%
陶	30,087	29,819	9,729	7,927	12,163	99.10%
鑄銭司	42,048	41,164	15,357	10,888	14,919	97.60%
名田島	43,099	42,426	19,255	10,255	12,916	97.20%
秋穂二島	42,278	41,745	11,342	8,627	21,775	84.80%
秋穂	54,814	54,116	8,734	13,463	31,919	97.00%
嘉川	82,433	79,647	26,793	14,193	38,661	97.90%
佐山	40,160	38,041	7,853	3,850	26,338	100.00%
阿知須	97,574	95,637	35,632	22,063	37,941	94.60%
構成率	43.8%	44.2%	39.7%	40.2%	49.1%	
その他地域	713,372	682,247	230,873	163,832	287,543	

(出典:H19山口市統計年報)

平成19年4月1日現在

●汚水処理の状況(水洗化率)

汚水処理は公共下水道、農業集落排水、漁業集落排水の各事業により行われており、必要な整備をはじめ水洗化に向けた取り組みを進めています。

表8 汚水処理の状況(水洗化の状況) (人、%)

処理形態	処理区域	処理区域内人口 (住基人口) A	水洗化人口 (住基人口) B	処理形態 ごとの水洗化率 (B/A)
公共下水道 事業	小郡	22,386	21,543	96.2%
	秋穂	2,503	1,157	46.2%
	阿知須※	4,807	4,637	96.5%
農業集落 排水事業	名田島(名田島、陶)	1,711	1,605	93.8%
	二島東(秋穂二島)	338	255	75.4%
	宮之旦(秋穂)	154	120	77.9%
	秋穂西(秋穂)	860	835	97.1%
	大海(秋穂)	1,022	906	88.6%
漁業集落 排水事業	長浜(秋穂二島)	492	403	81.9%

※阿知須区域については宇部・阿知須公共下水道組合の施行
(出典:市業務課)

平成20年3月31日現在

●観光地別観光客数(主な観光地)

本市の直近3か年の観光客数は、イベント等の開催によりばらつきはありますが、統計データのある観光地ごとに見ると概ね横ばいか微減となっています。

表9 観光地別観光客数(主な観光地) (人)

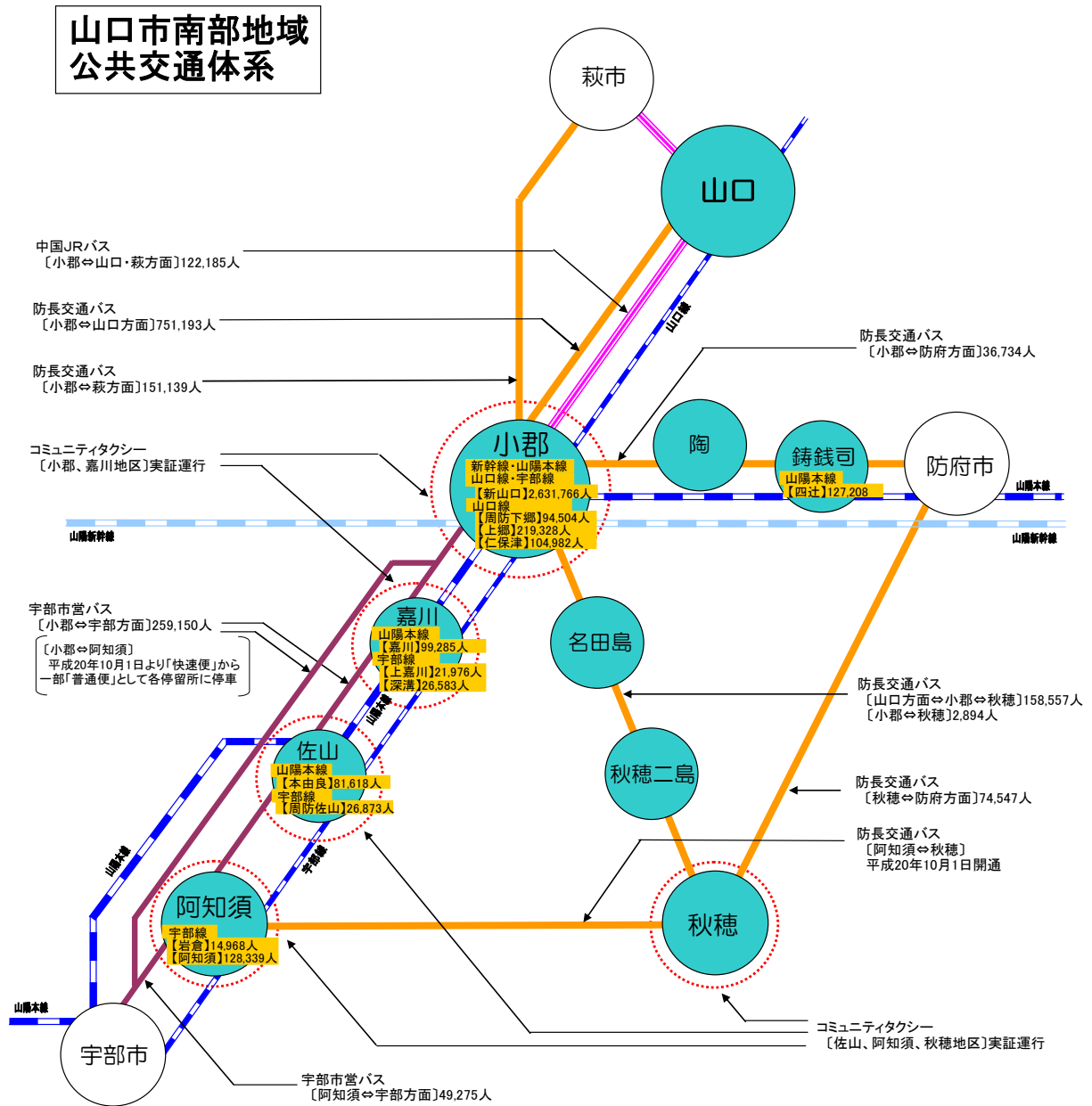
地域	観光地	H17 (2005)	H18 (2006)	H19 (2007)
山口	湯田温泉	797,015	789,953	802,499
	香山公園・洞春寺	486,928	511,715	500,302
	常栄寺雪舟庭	107,151	118,733	110,035
	美術館・博物館・歴史民俗資料館ほか	118,585	282,370	158,971
	亀山公園・山口サビエル記念聖堂	175,464	178,678	177,554
	道の駅仁保の郷	653,454	659,262	653,691
	山口情報芸術センター	317,804	303,170	273,183
小郡	山口市小郡文化資料館	10,130	9,031	13,136
	其中庵	4,720	4,470	6,487
	新山口駅周辺ホテル	174,660	174,980	175,758
秋穂	秋穂荘	54,513	48,379	43,936
	秋穂八十八カ所	18,270	17,660	16,715
	海水浴	18,870	19,200	18,840
阿知須	公園(スポーツ)	381,384	396,819	360,467
	ゴルフ場	124,851	125,560	125,864
	道の駅きららあじす	723,970	767,424	784,638
徳地	重源の郷	46,163	36,985	33,797
	柚木慈生温泉	30,868	28,966	30,541
その他の観光地		413,304	459,936	357,076
合計(延べ人員)		4,658,104	4,933,291	4,643,490

(出典:H19山口市統計年報)

●公共交通体系と利用者数

鉄道は新山口駅を結節点として新幹線を含め東西南北方面へ4路線の鉄道網となっています。

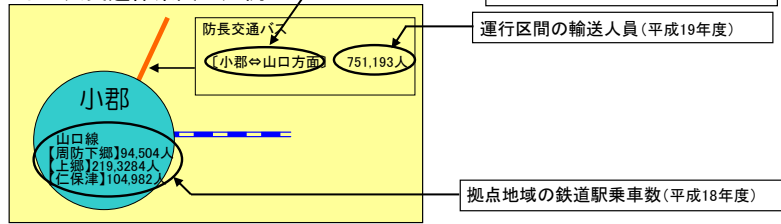
路線バスは新山口駅を結節点として路線網を敷いています。コミュニティタクシーは地域が主体となった実証運行事業がら路線で行われています。



●系統

【鉄道】	山陽新幹線
	在来線(山陽本線・山口線・宇部線)
【路線バス】	防長交通㈱
	中国JRバス㈱
	宇部市営バス
【コミュニティタクシー】	小郡、嘉川、佐山、阿知須、秋穂

●公共交通体系図の凡例



(出典: H20.3.25JRダイヤ, H19山口市統計年報、市交通政策課)

2 地域の特性

ここでは将来(概ね10年後)の南部地域のまちのすがたを描くにあたり、「住む」「働く」「学ぶ」「楽しむ」「交流する」をキーワードに現状と課題を整理します。

地区名	現状(地域の資源)	課題
小郡	<p><住む></p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉄道、バスの結節点であり、高速道路、広域幹線道路網により各地への交通利便性が高い。 ・団地開発や新山口駅周辺でのマンション建設が進んでいる。 ・新山口駅周辺、幹線道路沿線に大型商業施設が立地している。 ・医療機関は二次救急医療病院をはじめとして医科、歯科とも集積が見られる。 <p><働く></p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内金融機関支店の集積が見られる。 ・流通センター、流通団地の整備により卸売業等流通機能の集積が見られる。 <p><学ぶ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・山口学芸大学等の高等教育機関をはじめ、高等学校、専門学校が設置されている。 ・小郡文化資料館が設置されている。 <p><交流する></p> <ul style="list-style-type: none"> ・JR 山口線、宇部線の起終点であり、鉄道のまちとして発展してきた。 	<p><住む></p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内交通網の結節点であるが、地区内の公共交通ルートの整備が必要。 ・自治会の運営が困難となっている地区があり、住民自治組織の充実、育成が必要。 <p><働く></p> <ul style="list-style-type: none"> ・流通団地には未分譲地があり、企業立地の促進が必要。 ・商店街の活力再生が必要。 ・新山口駅南エリアの事業所の集積促進が必要。 <p><学ぶ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・山口学芸大学、山口芸術短期大学との産・学・官連携の推進が必要。 <p><交流する></p> <ul style="list-style-type: none"> ・小郡都市核づくりを踏まえた広域的な交流拠点機能の強化のための整備が必要。
陶	<p><住む></p> <ul style="list-style-type: none"> ・小郡地区に隣接していることから、医療機関、商業施設の利用などで結びつきが深い。 ・緑豊かな自然と田園風景がある。 <p><働く></p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業従事者の割合は市全体の農業従事者の割合と比較して高くなっている。 ・福祉施設が立地している。 <p><楽しむ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・陶ヶ岳の登山は根強い人気がある。 ・地区内には神社がら社あり、八雲神社や春日神社の例祭には多くの参加者や見物客がある。 	<p><住む></p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通結節拠点には近いが、そこに至るまでの公共交通アクセスの改善が必要。 <p><働く、交流する></p> <ul style="list-style-type: none"> ・小郡都市拠点地域に隣接する地の利と遊休農地を活用した新しい農業の展開が必要。

地区名	現状(地域の資源)	課題
	<p><学ぶ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・国指定史跡の須恵器窯跡をはじめとする多くの古い史跡が点在している。 	
<p>鑄銭司</p>	<p><住む></p> <ul style="list-style-type: none"> ・緑豊かな自然と田園風景がある。 <p><働く></p> <ul style="list-style-type: none"> ・鑄銭司団地の整備により物流機能の集積が見られる。 ・農業従事者の割合は市全体の農業従事者の割合と比較して高くなっている。 ・福祉施設が立地している。 <p><楽しむ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・陶ヶ岳の登山は根強い人気がある。 ・長沢池周辺は散策コースとなっている。 ・両足寺はもみじ、椿の名所とされている。 <p><学ぶ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・国指定史跡である周防鑄銭司跡や大村益次郎墓がある。 ・総合研修施設である県セミナーパークが立地している。 ・鑄銭司郷土館が設置されている。 	<p><住む></p> <ul style="list-style-type: none"> ・山口都市拠点地域との交通アクセスの改善が必要。 <p><働く></p> <ul style="list-style-type: none"> ・鑄銭司団地には未分譲地があり、企業立地の推進が必要。 <p><楽しむ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・長沢池周辺、陶ヶ岳、鑄銭司遺跡の活用。
<p>名田島</p>	<p><住む></p> <ul style="list-style-type: none"> ・小郡地区に隣接していることから、医療機関、商業施設の利用などで結びつきが深い。 ・榎野川と南若川に囲まれた豊かな自然と田園風景がある。 <p><働く></p> <ul style="list-style-type: none"> ・干拓農業を中心とした県内有数の穀倉地帯である。 ・農業従事者の割合は市全体の農業従事者の割合と比較して高くなっている。 <p><学ぶ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・国指定史跡である新開作南蛮樋がある。 <p><楽しむ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・農協朝市が定期的開催されている。 <p><交流する></p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ・文化の拠点となっている市南総合センターが設置されている。 	<p><住む></p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通結節拠点には近いが、そこに至るまでの公共交通アクセスの改善が必要。 <p><交流する></p> <ul style="list-style-type: none"> ・小郡都市拠点地域に隣接する地の利を活用し、農用地と共存する将来の新たな都市拠点エリアとしての発展が期待できる。

地区名	現状(地域の資源)	課題
秋穂 二島	<p><住む></p> <ul style="list-style-type: none"> ・幹線道路が東西方面、南北方面に整備されているため、車での移動は利便性が高い。 ・日常の買物は小郡、秋穂、阿知須方面の商業施設を利用している。 ・良好な海浜環境と緑豊かな自然、田園風景がある。 <p><働く></p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業従事者の割合は市全体の農業従事者の割合と比較して高くなっている。 <p><学ぶ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合研修施設である県セミナーパークが立地している。 ・県水産研究センター内海研究部が立地している。 	<p><住む></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者、学生等が利用しやすい公共交通アクセスの整備が必要。 <p><楽しむ、交流する></p> <ul style="list-style-type: none"> ・海、川、山、田畑を活用した自然、文化交流の展開が必要。
秋穂	<p><住む></p> <ul style="list-style-type: none"> ・良好な海浜環境と緑豊かな自然、田園風景がある。 ・別荘地としての宅地整備が見られる。 ・福祉施設が立地している。 <p><働く></p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業従事者は市全体の漁業従事者の約6割を占めている。 ・第二次産業従事者の割合が市全体の第二次産業従事者割合と比較して高くなっている。従事者数では製造業者が多い。 <p><楽しむ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅あいおには多くの利用者が訪れている。 ・国民宿舎秋穂荘等の宿泊施設、中道をはじめとする海水浴場など自然環境を活用した集客施設がある。 ・秋穂八十八カ所霊場巡りなど伝統的な文化が残っている。 <p><学ぶ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・(社)山口県栽培漁業公社内海栽培漁業センターが立地している。 ・国指定文化財である正八幡宮がある。 	<p><住む></p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共交通アクセスの整備が必要。 ・別荘地としての付加価値を高める必要がある。 <p><働く></p> <ul style="list-style-type: none"> ・水産資源の活用とその付加価値化が必要。 <p><楽しむ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・マリンスポーツが楽しめる環境整備が必要。 ・リゾートタウンとしての機能充実が必要。 <p><交流する></p> <ul style="list-style-type: none"> ・特色あるイベントの継続と充実が必要。

地区名	現状(地域の資源)	課題
	<p><交流する></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市大海総合センター（らんらんドーム）が設置してある。 ・えび狩り世界選手権は特色あるイベントとなっている。 	
嘉川	<p><住む></p> <ul style="list-style-type: none"> ・東西方面、南北方面の広域幹線道路網により車での移動の利便性は高い。JR は山陽本線、宇部線が通っている。 ・興進小学校区は佐山地区、阿知須地区と嘉川小学校区は小郡地区と医療機関、商業施設の利用などで結びつきが深い。 ・幹線道路沿線外では緑豊かな自然と田園風景がある。 <p><働く></p> <ul style="list-style-type: none"> ・国道190号沿線に運輸、物流機能の集積が見られる。 <p><楽しむ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市南部運動広場が設置されている。 ・藤尾山公園が整備され、市民の憩いの場として利用されている。 	<p><住む></p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通結節拠点には近いが、そこに至るまでの公共交通アクセスの改善が必要。 <p><働く、交流する></p> <ul style="list-style-type: none"> ・小郡都市拠点地域に隣接する地の利と遊休農地を活用した新しい農業の展開が必要。 ・山口物流産業団地には、未分譲地があり、企業立地の推進が必要。 ・小郡都市核エリアの業務集積ゾーンに位置づけられているエリアやその南側エリアについては、新たな都市拠点エリアとしての発展が期待できる。
佐山	<p><住む></p> <ul style="list-style-type: none"> ・東西方面、南北方面の広域幹線道路網により車での移動は利便性が高い。 ・幹線道路沿線外では緑豊かな自然と田園風景がある。 <p><働く></p> <ul style="list-style-type: none"> ・山口テクノパーク、山口テクノ第2団地などの企業団地が整備され、製造業、卸売業等の立地が進んでいる。 <p><楽しむ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・藤尾山公園、河原谷公園が整備され、市民の憩いの場として利用されている。 	<p><住む></p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共交通アクセスの改善が必要。 ・佐山ハビテーション（住宅団地）には未分譲の宅地があり、居住推進が必要。 <p><働く></p> <ul style="list-style-type: none"> ・山口テクノパークなどの企業団地には未分譲地があり、企業立地の推進が必要。
阿知須	<p><住む></p> <ul style="list-style-type: none"> ・幹線道路沿いに大型商業施設の立地が見られる。 ・南北方面の広域幹線道路により車での移動は利便性が高い。 	<p><住む></p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣の佐山、嘉川地区との日常生活のつながりの深まりに伴い、公共交通アクセスなど生活拠点としての機能向上が必要。 <p><働く、楽しむ、交流する></p>

地区名	現状(地域の資源)	課題
	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅団地の開発により人口が増加している。 ・2つの総合病院が立地している。 <p>＜働く＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南部地域では小郡地区に次いで第三次産業従事者の構成割合が高く、市全体の傾向とほぼ一致する。 <p>＜楽しむ、学ぶ、交流する＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幹線道路沿いには山口きらら博記念公園、県立きらら浜自然観察公園、道の駅あじすが整備され、多くの来場者がある。 ・縄田地区には伝統的な町並みが残されている。 ・広大な敷地を持つゴルフ場が立地している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・きらら浜の開発余力を最大限活用することが必要。 ・既存のスポーツ施設、商業施設、レジャー施設について一層の交流機能の充実が必要。 ・隣接する宇部市との日常生活のつながりを生かし、都市機能の補完、連携関係の構築が必要。

Ⅲ 南部地域振興の方向性

1 基本方針

(1) 広域県央中核都市の形成に向けて

～小郡都市核形成をエンジンとして～

本市は県中部を圏域とする「広域経済・交流圏」の形成を通して、「広域県央中核都市」づくりを積極的に進めることとしています。

そして本市の南部地域は広域県央中核都市の核である小郡都市核を有しています。

広域高速交通網の結節点であり、山口県の陸の玄関として新市街地の形成が進む小郡都市核は、本市の新たな発展を実現するための重要なエリアです。

小郡都市核の有する広域的な求心力、拠点性をさらに高めていくためには、南部地域の地域資源を活用していくことが大切です。

また、そのことが南部地域に小郡都市核形成の波及効果としてよい影響を与え、南部地域全体の振興につながっていきます。

都市核エリアを単に都市化するだけでは地域振興も限定的であり、南部地域の持つ多様性を生かしていくことこそが必要であるという認識の下、南部地域振興を図っていきます。

①小郡都市核形成を支える地域資源

◆整備された産業団地

南部地域には山口テクノパーク、山口テクノ第2団地、鑄銭司団地、山口物流産業団地等の産業団地が整備されています。

◆広域高速交通網

南部地域には中国自動車道、山陽自動車道が東西に整備されているとともに、山陽新幹線停車駅の新山口駅は鉄道の結節点となっています。

◆開発余力を持った事業用地

約286ヘクタールの広大で平坦な公有地である阿知須地域のきらら浜は、約36ヘクタールが民間活用エリアとしての土地利用が予定されており、交通アクセスの優位性から「さまざまな交流によるぎわいの場の創造」が期待されています。

また、新山口駅北地区西側には大規模な遊休地があり、土地の有効活用を行うことで都市核の求心力を高めていくことが可能です。

将来的にはJR山陽本線以南の小郡都市核エリア及び「新たな都市拠点ゾーン」についても、都市機能集積の受け皿としての発展が期待できます。

◆都市拠点地域に隣接する田園地域、スポーツ、レクリエーション等の余暇施設

小郡地域に隣接する田園地域は食料供給の場であるとともに、農業を通じた様々な交流を実現することが可能です。

また、山口きらら博記念公園、きらら浜自然観察公園など交通アクセス性に優れたスポーツ、レクリエーション施設が立地しています。

②小郡都市核形成による地域波及効果

◆都市的サービス、就業、就労の機会の拡大

業務、商業といった都市機能のさらなる集積が都市型産業の集積を呼びなど、にぎわいがにぎわいをもたらすことで、都市的サービスは質・量ともに拡大していきます。またこれにより就業、就労の機会を地域全体で享受することができるようになります。

◆定住・交流人口の増加

都市的サービスの拡大はここに住みたいと思う人やここで過ごしたいと思う人の増加をもたらします。また南部地域の地域資源を活用して、UJIターンや二地域居住といった多様なライフスタイルにも対応することができるようになります。

さらに定住・交流人口の増加は地域コミュニティを活性化し、様々なテーマコミュニティの活動の場を広げていきます。

◆経済活動の活発化

一定の人口集積と都市機能集積により地域内での消費活動が活発になり、特に農林水産物等では、域内経済のプラスの循環が期待されます。

また都市核に隣接する産業団地への企業立地や広域を統括する事業所の進出が誘発され、産業交流が新たな産業を生みだすきっかけを創出します。

(2) この地に暮らすことに愛着を感じる地域づくり

地域が元気になるためには、まずその地に住む人々がそこで暮らすことに愛着を感じるということが大切です。

そのためには生活に身近なところで暮らしの豊かさや活力を実感できることが必要です。

今いる世代だけでなく、次代を担う人たちのためにも、将来にわたって安心して暮らせる持続可能な地域づくりを進めていきます。

①重層的集約型都市構造の構築

地域コミュニティ、行政サービス、医療・福祉、文化、公共交通など暮らしに必要な諸機能が近接するよう生活拠点への機能集積を促進します。

また、「山口市市民交通計画」に基づき都市拠点や生活拠点間の基幹交通の充実と生活拠点と集落を結ぶコミュニティ交通づくりを促進し、利便性の高い公共交通ネットワークを構築します。

②よりよい生活圏の構築

交通網の整備や情報化の進展により社会経済活動の広域化が進み、日常生活圏や活動圏は大きく拡大し、行政区域を意識しないライフスタイルが定着しています。

そうした中であって、市民生活に根ざした生活圏づくりと生活圏相互の連携強化を進めます。

③市民の力を生かす地域づくり

ライフスタイルや価値観の多様化、地縁関係の希薄化等により地域社会での交流の機会が少なくなり、地域が持っていた支えあい、助け合いといった地域における相互扶助の機能が低下しています。地域コミュニティの存続、再構築を図り住民自治の意識を高め、地域の課題を地域で解決する仕組みづくりに取り組んでいきます。

2 南部地域の将来像

南部地域が持つ多様な地域特性と振興の基本方針を踏まえ、今後めざしていく将来像を次のとおりとします。

●地域産業、地域資源に磨きをかけ、広域経済・交流圏をリードする地域

農水産業や卸売・小売業、サービス業といった地域産業、多様な地域資源に磨きをかけ、新たな付加価値と産業を創出することで、さらなる都市機能の集積と地域経済の活性化を図ります。

●豊かな自然環境がうるおいとゆとりを生み出す地域

美しい田園風景や海浜の景観など豊かな自然環境の中で、生活する人と訪れる人ともにゆとりとうるおいを感じることができるよう、魅力のある空間づくりを進めます。

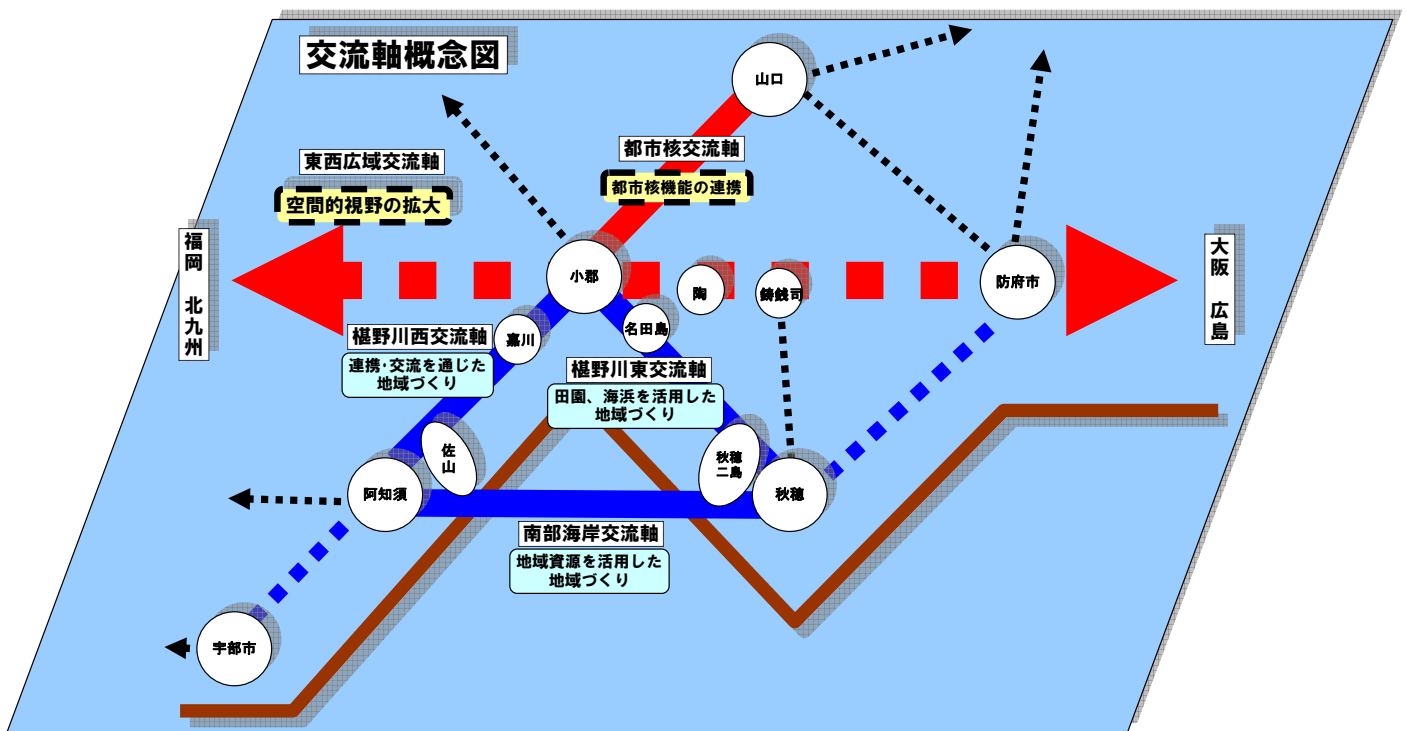
●ともに支えあい助け合う愛着の持てる地域

生活する人が住みなれた地域で愛着を持って暮らしていけるよう、地域コミュニティの再構築を通して人々が支えあい助け合う地域社会を築いていきます。

IV ビジョンの推進

南部地域振興の方向性を踏まえまちづくりを進めていく上で、「広域経済・交流圏の形成を通じた広域県央中核都市づくりと、南部地域はどのような関わりを持っていくのか」「生活により身近な地域ごとの振興はどのように取り組んでいくのか」について、都市機能、地域特性や地理的条件、日常生活圏などの要素に基づき、広域経済・交流圏形成の視点と地域づくりの視点という2つの空間把握により本ビジョンを推進します。

ビジョンの推進にあたっては、東西との広域的な交流を視野に入れた交流軸と、山口、小郡、秋穂、阿知須の各地域を拠点とした、地域内外を結ぶ5本の交流軸を設定し、その特色を活かせるよう、次のような地域振興の方向性と取り組みを示します。



1 広域経済・交流圏形成の視点から

(1) 東西広域交流軸 ～空間的視野の拡大～

国の第5次の全国総合開発計画「21世紀の国土のグランドデザイン」に示されていた西日本交流軸と重なるこの交流軸は、新たに策定された国土形成計画における広域ブロック間の連携を念頭に置き、近畿地域と九州地域、さらに東アジア地域を視野に入れて振興を図っていきます。

①広域ブロック、東アジアを見すえた交流と結節・中継機能の充実

・本交流軸は中国地方と九州地方を結ぶ軸となり、さらに視野を広げると東は近畿地方、西は東アジアとの交流を展望することが可能となります。

瀬戸内海沿岸から九州北部へと連なる二次産業を中心とする産業集積は、すでに東アジア地域との密接な経済関係を有し、国内においても重要な役割を担っています。

このような交流軸上にある本地域は、広島、福岡・北九州の中核都市圏の中間に位置し、二方面を臨むことができることから、小郡都市核形成を通して経済の結節、中継機能の充実を進めていきます。

また、産業集積の連たん性やネットワーク性を高めていくことで、広域的な経済活力の向上に寄与していきます。

②山口宇部空港、新山口駅の活用と東アジア産業・観光交流等の推進

・近年発展の著しい東アジアとの産業交流や観光交流をより身近なものとし、本交流軸の活性化を図るためには、山口宇部空港と新山口駅という広域高速交通拠点の利便性の向上が不可欠であるといえます。本県の空の玄関と陸の玄関となる重要な拠点であり、県、宇部市と連携して両拠点の機能向上を推進します。

・本地域には西日本有数のゴルフ場と温泉施設が立地しています。多くの来訪者を迎えています。近年発展の著しい東アジアからの観光客も多く訪れています。こうした海外からの観光客が、本市を観光回遊できるよう山口都市核づくりと連動させて観光ルートを開発するとともに、そのための体制づくりを観光関係者、旅行代理店等と連携して行っていきます。

・平成23年の九州新幹線全線開通に伴い、九州・山陽新幹線の相互乗り入れが開始される予定であり、これらを利用する人の流れは、より広域的になることが予想されます。こうした変化を好機と捉え、積極的な観光客誘致を事業者とともに取り組んでいきます。

③企業誘致の推進

・本地域は、防府、広島及び北部九州をあわせた自動車産業集積地の地理的中心であり、これらの圏域をつなぐ結節点となっています。また、環境分野としての基礎素材型産業が集積する、宇部・山陽小野田地域に隣接しています。

こうした地域の特性を生かし、山口テクノパーク等の産業団地への加工組立型産業、流通関連産業、環境関連産業等の企業誘致を積極的に推進します。

- ・豊かな自然と交通アクセスの優位性をアピールし、地域の新たな顔となる企業や事業所等の立地を関係機関と連携して進めていきます。
- ・きらら浜全体約286ヘクタールのうち約36ヘクタールがきらら浜民間活用エリアとして事業化が予定されています。

④新山口駅周辺地区への都市機能集積

- ・新山口駅南北地区の一体性促進と新山口駅の交通結節・アクセス機能の強化のため、新山口駅ターミナルパーク整備を先導的に推進していきます。
- ・新山口駅北地区西側の大規模遊休地への公共公益・大規模集客施設等の整備・事業化に向けた調査研究を官民一体で行っていきます。
- ・業務集積の進む新山口駅南地区の土地区画整理事業用地については、一部低未利用地が見られることから、引き続き業務・業務支援機能等の誘導を積極的に進めます。
- ・小郡都市核の発展状況や広域経済・交流圏における経済、産業の発展状況に応じて、新たな産業交流・創造空間づくりのための研究を官民一体で行っていきます。

(2) 都市核交流軸 ～都市核機能の連携～

この交流軸は JR 山口線、国道9号、県道山口宇部線、県道山口小郡秋穂線により山口地域と小郡地域を結ぶ軸線であり、山口、小郡の両都市核の相乗的な都市機能強化を図っていきます。

①公共交通ネットワークの充実

- ・広域交流機能を発揮する2つの都市核は異なる特性を有しており、それぞれの特長を伸ばし、より高度化を進めていく一方で、不足する機能等については互いの結びつきを深め、連携・補完する必要があります。

そのために多様な交通ネットワークの構築、強化を進めていきます。

②まちの玄関機能、にぎわい・もてなし機能の充実

- ・小郡都市核の持つ交通結節機能、玄関機能の強化と新山口駅周辺の面的整備、山口都市核の持つ商業、文化等のにぎわい機能、湯田温泉のもてなし、いやし機能について相乗的な機能強化を図っていきます。

これには南部地域の付加価値化された地域資源を大いに活用していきます。

③新山口駅周辺市街地の再編、再生の促進

- ・新山口駅ターミナルパーク関連整備の効果を面的に広げていくため、既存商店街を含めた市街地の再編促進を図ることで、商業、業務、居住などの多様な都市機能を備えたにぎわいのある市街地への再編、再生を行っていきます。

2 地域づくりの視点から

(1) 榎野川東交流軸 ～田園、海浜を活用した地域づくり～

この交流軸は県道山口小郡秋穂線により小郡地域と秋穂地域を結ぶ軸線であり、小郡地域に隣接する地域特性を踏まえ、陶、鑄銭司地区を含めた振興を図っていきます。

①地域の特産品のイメージアップと付加価値化

・本交流軸上には県内有数の穀倉地帯が広がり、秋穂地域沿岸部では車えびの養殖、加工などの水産業が盛んです。

農水産品についてはより新鮮、より安心・安全という消費者のニーズを捉え、産地、産品両方のイメージアップを図っていきます。

また、本市ならではの特産品については観光業と連携し、ブランド化を図っていきます。

②圏域内地産地消の促進

・本地域で収穫、水揚げされる農水産品が域内で消費される、いわゆる地産地消の取り組みを一層進めるため、農水産業者、商工業者、飲食業者、観光業者等との連携を強化し、加工食品の製造販売、地域の飲食店、レストラン、旅館、学校給食等への地域食材利用を促進していきます。

・化石燃料や化学肥料等の生産資材の価格上昇においても農業生産や農業経営が持続できるよう、バイオマスを活用した代替エネルギーを導入し、もうひとつの地産地消を促進します。

また、これに関連する企業に対し産業団地への立地を促していきます。

③つくる、食べる、体験する、やまぐち食文化の創造

・農村、漁村への滞在、体験型観光に対する取り組みとして、本地域の農水産品や宿泊施設を活用して、農業、漁業体験イベント等を実施するとともに、地域の受け入れ体制の強化を地域と連携して進めていきます。

・本地域で収穫、水揚げされる新鮮、安全な農水産品を活用し、安心できる食品などの特産品開発を推進します。

また、飲食店やみやげ物の販売者との連携により、特産品を生かした本市ならではの食文化創造に努めていきます。

④研究機関との連携

・農水産業にかかるさまざまな取り組みは、専門知識や技術的な視点が必要であることから、域内に立地している水産研究機関や山口地域の大学、農業研究機関との連携を進めていきます。

(2) 榎野川西交流軸 ～連携・交流を通じた地域づくり～

山口宇部有料道路、国道190号、JR 山口線、JR 宇部線が走るこの交流軸は、小郡地域と阿知須地域を結ぶ軸線であり、その延長上にある宇部市との連携を視野に入れて振興を図っていきます。

①環境関連産業の振興

・本交流軸は山口地域と宇部市を結ぶ軸線と重なり、山口大学をはじめとする高等教育機関や学術研究期間の集積が見られます。

宇部市においては早くから産・官・学・民が協働して環境共生都市づくりを推進され、高い技術力を持った環境関連企業が集積しています。

こうした中、本市は小郡都市核づくりにおいて“環境”を新たなアイデンティティとして位置づけており、環境問題へ取り組む多様な主体に対する結節機能を通して広域経済・交流圏の中でその役割を果たしていきます。

②山口、宇部両地域の高等教育機関、研究機関との連携と企業誘致の推進

・高等教育機関や研究機関との連携を進め、産・学・官一体となった環境負荷の低減、循環型社会の構築への取り組みを通して、今後成長が期待される環境産業の振興を図るとともに、山口テクノパーク等での環境関連企業の誘致を進めていきます。

③生産性の高い農業とやまぐち食文化の創造

・大規模な農地を活用して農業生産性の向上を図るとともに、本地域で収穫される安全な農産品を活用し、安心できる食品などの特産品開発を推進します。

また、飲食店やみやげ物の販売者との連携により、特産品を生かした本市ならではの食文化創造に努めていきます。

④スポーツイベント、集客イベントの誘致

・山口きらら博記念公園では平成23年に「おいでませ山口国体」が、きらら浜では平成25年に「第16回日本ジャンボリー」、平成27年に「第23回世界スカウトジャンボリー」が開催されます。これら全国的、世界的なイベントのPRにあわせ、広大なスペースを持ち新山口駅、山口宇部空港といった広域高速交通拠点からの交通アクセスに恵まれたきらら浜のPRを行い、スポーツイベントや大規模集客イベントの誘致を促進していきます。

⑤隣接市(西部)との都市機能連携

・本市の阿知須地域はこれまで隣接する宇部市と医療、下水道、ごみ処理等の行政サービスについて広域的に取り組んできました。日常生活においても行政区にとらわれない深いつながりを持っており、引き続き都市機能の連携・補完を進めていきます。

・宇部市と本市南部地域を結ぶ広域交通網の充実を図るため、都市計画道路岡山線及び海岸線の整備を促進していきます。

(3) 南部海岸交流軸 ～地域資源を活用した地域づくり～

この交流軸は南部海岸道路により秋穂地域と阿知須地域を結ぶ軸線であり、その延長上にある東の防府市、西の宇部市との連携を視野に入れて振興を図っていきます。

①南部海岸道路の活用

・本交流軸は、防府市と宇部市間を南部海岸道路で結んでいます。両市には第二次産業の集積が見られ、県産業を支えています。南部海岸道路という物流アクセスの優位性を生かし、秋穂地域と防府地域の産業的な結びつきの強化や山口テクノパーク、山口物流産業団地への企業誘致を図り、既存産業とのビジネスネットワークの構築を推進します。

②地域文化、地域資源を活用した保養プログラムの充実

・阿知須地域、秋穂地域には秋穂八十八ヶ所お大師参りや阿知須縄田地区の伝統的な町並みなどをはじめとする特色ある地域文化が根付いています。またこの地域には、スポーツ、健康、医療、福祉の各分野の施設の立地が見られます。

これらの施設の利用者が何度もこの地を訪れるよう、こうした地域資源を活用した保養プログラムを充実させ、ヘルスツーリズムの推進を図っていきます。

③レクリエーション空間の活用と整備

・海洋資源や耕作可能な農地に恵まれているこの地域では、市民農園や体験型、学習型といった多様な観光ニーズに対応した体験の場を充実させていくとともに、既存施設やイベントを活用した交流を推進していきます。

・秋穂地区の海望公園について都市公園としての整備を進めるとともに美しい景観をアピールしていきます。

・海浜や田園の自然豊かな景観を生かし、誰もが憩える場の整備を進めるとともに、美しい環境を守るための美化活動を推進します。

④道の駅を介した交流の推進

・道の駅は道路利用者の利便施設であるとともに、情報発信施設としてもその担う役割が大きくなってきています。地域で生産される農水産物、文化や名所のアピールはもとより広く山口市全体の情報発信を行い、市域内外の交流を進めていきます。

また、個性ある集客施設としてこの地域ならではの多様な製品が提供できる体制づくりを進めていきます。

⑤水産業の基盤整備

・円滑な漁業生産活動が行われるよう秋穂地区の漁港関連施設の整備・しゅんせつを進めていきます。

・高潮被害等に対する対策施設の設置を行い、安全な環境づくりを推進します。

⑥隣接市(東部)との都市機能連携

・本市の秋穂地域はこれまで隣接する防府市と医療・救急体制等の行政サービスについて広域的に取り組んできました。また就業・就学の間として深いつながりや共同漁業権を有する水産業の結びつきを持っています。

こうした密接な関係を基にして都市機能の連携・補完を進めていきます。

(4) 安心して暮らせる地域づくり ～地域づくりに共通する取り組み～

①住民自治の仕組みと基盤づくり

・住民自治とは「自治体の運営はその自治体の住民の意思にもとづき、住民の参加によって行われるべき」という考えのもと、地域内の課題解決をその地域内の住民が主体的に行っていく、いわば「自らのことは自らで決める」ことをいいます。

・自治会等の地域コミュニティはその基本単位であり、その活性化はこれからのまちづくりに欠かせずことはできません。

今後は(仮)地域づくり協議会等の支援を通じたコミュニティの活性化や住民自治の拠点となる(仮)地域交流センターの整備を進めていきます。

②地域生活圏内外を結ぶ公共交通アクセスの充実

・重層的集約型都市構造の構築を進めるにあたり、本市の各地域がそれぞれ持つ多様なサービス機能をネットワーク化することは必須の要件となります。

地域間移動のネットワークについては自動車交通に過度に依存しなくてもよいように、また日常必要な移動には公共交通を選択できるなどすることが必要です。

基幹交通の利便性の向上や交通弱者の立場にある人たちに対する公共交通サービスの充実を進めるとともに、そうした公共交通を地域で育てる仕組みづくりに取り組みます。

南部地域振興ビジョン 用語説明(ページ順)

初出 ページ	用語	用語説明
2	道州制	行政区域として道と州を置く地方行政制度のことをいいます。北海道以外の地域に複数の州を設置して、現在の都道府県より高い行政権限を与える構想についての議論が本格化しています。
2	経済のソフト化	経済構造が第二次産業を中心とするハード的・モノ重視から第三次産業を中心とするソフト的・サービス重視へと移行することです。
2	(経済の) グローバル化	一般には、人、もの(資本)、お金が、情報通信技術の発展や交通手段の発達等とあいまって国境を自由に行き交う経済活動のことをいいます。
2	広域県央中核都市	人口30万人以上を有する高い都市経営能力を持つ都市で、広域経済・交流圏における経済活動を支え、広域的に質の高い都市的サービスを提供するとともに、世界に通用するまちとしての価値を創造・発揮する都市とします。その拠点として山口都市核、小郡都市核を位置づけます。
2	広域経済・交流圏	県中部の圏域で、広島、福岡・北九州地方中枢都市圏の中間に位置するという特性を踏まえ、市町間の交流・連携を通じた地域資源の有効活用や経済循環の活性化等、市域を越えた取り組みや経済的な一体性の形成が望まれる地域とします。
6	年少人口割合	全人口に占める0歳～14歳人口の割合のことをいいます。
6	老年人口割合	全人口に占める65歳以上人口の割合のことをいいます。
6	市(町)内総生産	市(町)内における1年間の生産活動によって生じた新たな付加価値の総額のことです。市(町)内で生産された財貨・サービスの売上高を貨幣評価したもの(産出額)から、物的経費(原材料や燃料などの中間投入)を控除して算定します。
8	水洗化率	公共下水道や農業・漁業集落排水施設が利用できる人のうち、実際にこれらを使っている人の割合のことをいいます。
9	コミュニティタクシー	一般には、乗合タクシーと呼ばれており、バス車両の代わりにタクシー車両を用いて所定のダイヤと運行経路にしたがって運行されます。

初出ページ	用語	用語説明
10	二次救急医療病院	原則として一次（初期）救急医療機関から患者を受け入れ、主に入院、手術等の治療が必要な重症救急患者に対応する病院のことをいいます。
10	交通アクセス	交通の利便性のことをいいます。
12	マリンスポーツ	海上や海中で行うスポーツのことをいいます。
12	リゾートタウン	ここでは多様な余暇活動が楽しめるまち、保養地としています。
15	新たな都市拠点ゾーン	「山口・小郡都市核づくりマスタープラン」（平成20年8月策定）の小郡都市核ゾーン別計画で示されたエリアのことで、嘉川地区の榎野川西岸、干見折川北岸、国道2号南側に囲まれた一帯と名田島地区のJR山陽本線、榎野川東岸、国道2号北側に囲まれた一帯のことを指しています。
16	都市型産業	業務機能や情報サービス機能、スポーツ・レクリエーション機能など、高次都市機能に関連して生じるニーズに対応して財やサービスの提供を行う産業群のことをいいます。
16	UJIターン	i) Uターン、ii) Jターン、iii) Iターンをまとめて表現したもので、それぞれ i) 出身地から地域外へ進学や就職のため都会に出た後、出身地に戻ることを、ii) 出身地から地域外へ進学や就職のため都会に出た後、出身地の近隣地域に戻ることを、iii) 出身地にかかわらず、住みたい地域を選択し移り住むことをいいます。
16	二地域居住	一般的には、都市住民が本人や家族のニーズ等に応じて、多様なライフスタイルを実現するための手段の一つとして、農山漁村等の同一地域において、中長期、定期的・反復的に滞在すること等により、当該地域社会と一定の関係を持ちつつ、都市の住居に加えた生活拠点を持つことをいいます。
16	地域コミュニティ	地域住民が自主的に参加し、その総意と協力により、住みよい地域社会を構築することを目的として構成させた集まりのことをいいます。
16	テーマコミュニティ	特定の地域問題の解決や前進に向け、一定の分野に特化した活動を行う集まりをいいます。

初出 ページ	用語	用語説明
17	重層的集約型都市構造	都市機能が無秩序に拡散するのではなく、行政サービス、医療、福祉、文化などの暮らしに必要な諸機能が集約立地するとともに、学術、芸術、観光等といった地域特性がもたらす多様な拠点機能がネットワーク化され、拠点各々が連携、補完されている都市構造のこととしています。
17	コミュニティ交通	ここでは、地域の特性や住民の要望に合った移動手段で、地域をきめ細かく回り、地域の中心地や基幹交通に接続する交通機関のことといいます。
17	ライフスタイル	生活の様式や形式のことをいいます。
22	バイオマス	一般には再生可能な生物由来の有機性資源のことで化石燃料を除いたもののことをいいます。
23	アイデンティティ	環境や時間の変化にかかわらず、連続する同一であるもののことをいい、主体性、役割、存在意義・価値ともいわれます。
23	日本ジャンボリー	4年に1度開催される、ボーイスカウト日本連盟が主催するボーイスカウトのキャンプ大会のことで、国内のボーイスカウトの最大行事といわれています。
23	世界スカウトジャンボリー	4年に1度開催される、世界スカウト機構が主催するボーイスカウトのキャンプ大会のことで、全世界のボーイスカウトの最大行事といわれています。
24	南部海岸道路	宇部市と防府市を結ぶ山口県道 25 号宇部防府線（一部山口県道 338 号大海秋穂二島線の区間）の呼称です。
24	ヘルスツーリズム	健康づくりを目的とした滞在型観光のことで、医療機関と連携し、その土地ならではの療法を受けながら旅行することをいいます。
24	市民農園	一般には都市住民がレクリエーション目的などで、小面積の農地を利用して野菜や花などを育てるための農園のことをいいます。